

事業名	国際観光推進費		
細事業名	「国際観光テーマ地区」三県協議会負担金	財務コード	102508
担当部課室	観光 部 国際交流 課 国際観光振興 担当 (内線)	4416	

事業の概要

実施期間	始期 H10 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助(富士箱根伊豆国際観光テーマ地区推進協議会)		
事業の目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	海外一般消費者 海外旅行会社	山梨県、静岡県、神奈川県にまたがる富士箱根伊豆国際観光テーマ地区の魅力を知っている	海外からの誘客促進 海外旅行会社における商品造成
事業の内容 主にH26年度	<p>事業概要</p> <p>山梨県、静岡県、神奈川県、行政機関、民間事業者が連携して、富士箱根伊豆地域及びその周辺地域における国際観光の一体的な振興を図り、外国人観光客の一層の誘致を行う。</p> <p>H26年度の実績</p> <p>ビジット・ジャパン地方連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富士山世界遺産登録を捉えた米仏豪メディア招請事業(メディア招請・ファムトリップ)</li> <li>インドネシア・マレーシア プロモーション事業(エージェンツ招請・ファムトリップ、マレーシア・インドネシアのトラベルフェアへの出展)</li> <li>タイからの誘客促進事業(エージェンツ・メディア招請・ファムトリップ、タイ国際旅行フェア出展)</li> <li>中国著名人活用PR事業(メディア招請・ファムトリップ)</li> </ul> <p>PRツールの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドマップを作成し、羽田空港国際線旅客ターミナルへ配架</li> </ul>		
根拠法令等	外国人旅客の来訪地域の多様化の促進による国際観光の振興に関する法律		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	25年度	26年度		27年度	28年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 ファムトリップ及び海外出展の回数	7回	8回	8回	8回	8回	活動指標 目標設定の考え方 協議会の主要事業である海外旅行会社等を招請するファムトリップ及び、海外旅行博等での出店回数とした。 データの出典等 協議会総会資料
	活動指標達成率(実績値/目標値)	100.0 %				
成果指標 三県への外国人延べ宿泊者数	2,119千人	2,486千人	3,168千人	3,168千人	3,168千人	成果指標 目標設定の考え方 H26年度の目標値はH24 H25の伸び率をH25の実績に乗じたもの。H27年度の見込値及び、H28年度の目標値はH26の実績を基準とした。 データの出典等 国土交通省宿泊旅行統計調査
	成果指標達成率(実績値/目標値)	127.4 %				
決算額又は予算額(千円)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	成果指標によらない成果
うち一財額	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
所要時間(直接分)	300 時間	300 時間	300 時間	300 時間	300 時間	
所要時間(間接分)	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間	
所要時間計	300 時間	300 時間	300 時間	300 時間	300 時間	
人件費コスト単位:千円(@2,048円×所要時間)	614	614	614	614	614	

これまでの事業の見直し・改善状況

--

活動量と成果の判断(平成26年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H26年度活動指標の達成率		
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)  
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること
H26年度成果指標の達成率		H26年は、円安等の追い風もあり三県への訪日外国人宿泊者数が約50%増加した。この数字は全国の伸び率33%を大きく上回るものであり、協議会の継続的なプロモーション効果があったものと考えられ、意図した成果をほぼ達成しているといえる。
a	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成28年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
無		

・「以外の判断項目」の欄  
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託  
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方角(平成28年度当初予算等での対応状況)

見直しの方角	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方角」が異なる場合は、その理由も記載すること
現行どおり	

・見直しの方角は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること  
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること